

令和6年度 指定管理者モニタリング票

所管課名 産業振興部 商工振興課
 電話番号 0835(25)2574

1 施設の概要

施設名称	防府市中高齢労働者福祉センター（サンライフ防府）
設置目的	中高年齢労働者の福祉の増進に資するため設置する。

2 指定管理者の概要

指定管理者	名称	公益社団法人防府市シルバー人材センター
	代表者	理事長 三谷 勇生
	所在地	防府市八王子二丁目8番9号
指定期間	令和6年4月1日 ～ 令和11年3月31日（5年間）	
選定方法	非公募	
(非公募の理由)	シルバー人材センターは、中高年齢労働者の嗜好や状況を把握しており、これまでに蓄積した施設管理、事業実績のノウハウ等により、安定的・効果的な施設の管理運営が可能であるため。（防府市公の施設の指定管理者の指定の手續等に関する条例第5条4号）	
利用料金制の有無	有	

3 指定管理業務の運営状況

業務内容 (具体的に)	(1)事業に関すること ① 健康づくり、教養の向上等のためにセンターの施設を提供すること ② 健康づくり、教養の向上等に関する研修会又は講習会等を開催すること ③ 職業に関する情報を提供すること ④ 前各号に掲げるもののほか、センターの目的を達成するために必要な事業を行うこと (2)施設及び設備の維持管理に関すること ① センターの使用の許可に関する業務 ② センターの使用に係る料金に関する業務 ③ センターの施設の維持管理に関する業務 ④ 前各号に掲げるもののほか、指定管理者がセンターの管理上必要と認める業務				
組織体制	センター長 1人 事務職員 1人（窓口兼務） 窓口補助職員 1人（会員8人によるローテーション） 清掃職員 1人（会員3人によるローテーション） 合計 4人				
労務環境	就業規則、給与規定等が策定され適切に運用されている。				
利用状況	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
①会議室・体育室利用者数（単位：人）					
	目標値	50,000			
	実績値	58,775			
	分析	体育室への空調設置工事に伴う使用制限や、会議室利用者の減少により利用者数が減少した。			
②教養講座受講者数（単位：人）					
	目標値	1,000			
	実績値	1,524			
	分析	講座数を増やすなど、多彩な講座開催による魅力向上の結果、受講者数が増加した。			

4 指定管理者の業務に係る収支状況

①指定管理業務に係る収支					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
指定管理料	12,094,000				
利用料金	6,869,500				
その他 (内訳)	10,957				
	受取利息：4,037				
	雑収益：6,920				
収入計(a)	18,974,457	0	0	0	0
人件費	6,312,741				
光熱水費	2,668,082				
修繕費	1,277,275				
その他 (内訳)	12,845,052				
支出計(b)	23,103,150	0	0	0	0
収支(a-b)	-4,128,693	0	0	0	0
分析	人件費については近年、賃金引上げ等により毎年増額傾向となっている。光熱水費については削減努力により、令和4年度をピークに減額転じている。物価高騰の影響を受けつつも、経費上昇抑制の取組の中施設運営が行われている。				
②自主事業に係る収支					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
収入計(c)	17,745,200				
支出計(d)	11,926,000				
収支(c-d)	5,819,200	0	0	0	0
主な内容	生け花、英会話等の趣味創作講座と、卓球、ヨガ等の体力づくり講座				

5 利用者満足度

調査概要	実施方法	施設利用者及び講座生に用紙を配布し、事務所での直接受け取り又は回収箱への投函方式
	時期	令和6年度中実施
	回収率	約94%（配布413⇒回収388）
	満足度の割合	とても良い22.8% 良い47% 普通27% 悪い0.5% とても悪い0%
対応状況	電話対応で一部問題が生じたため、その問題事案を職員間で共有し改善を図った。施設の修繕要望があるので、今後の最優先課題としていきたい。	

6 評価

指定管理者による自己評価	(1)事業に関すること及び(2)施設及び設備の維持管理に関することについて概ね達成できた。 新たに設置された体育室空調設備の効率的な運用に取り組みたい。
市の評価	収支状況については、物価高騰の影響がある中、支出額の抑制にしっかりと取り組まれていることを評価する。 また、これまでに引き続き、利用者からの高い満足度が得られる運営がおこなわれていることについても評価する。今後も、利用者のニーズに応じた環境作りと講座づくりに取り組まれることを期待する。